

## 「つくば市教育大綱」ってどんなもの？

### 沼崎小学校の 5 年生と森田充教育長が語り合いました



つくば市では、「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を最上位の目標としたつくば市教育大綱を 2020 年に策定し、「教えから学びへ」「管理から自己決定へ」「認知能力偏重から非認知能力の再認識へ」という理念のもと教育改革を進めています。

もしかすると、市民のみなさんの中には、「これまでと何が変わったの？」「具体的にどんな授業を行なっているの？」と疑問に思っている方もいらっしゃるかもしれません。そこで、つくば市の学びに関わる人たちにインタビューをして、改革の一端をお伝えしていくことにしました。

この記事では、豊里学園つくば市立沼崎小学校の 5 年生 6 人と森田充教育長の座談会をお届けします。教育大綱が学校生活とどうつながっているのか、語り合ってもらいました。

いまでも、将来も、幸せでいるために必要な力って？

## 1 つくばの教育が目指すもの

つくばの教育は、  
一人ひとりが幸せな人生を送ることを最上位の目標とする。

---

- ① 一人ひとりが幸せな人生を送るために、各人の違いが受容されそれぞれが持っている多様で豊かな個性が花開く環境をつくる。
- ② 地域全体がその環境において一人ひとりの「善き生の実現能力<sup>(1)</sup>」と、人と人がつながり、自主的に持続可能なより良い社会をつくるための「社会力<sup>(2)</sup>」を育てる。

[つくば市教育大綱](#)より抜粋

森田教育長: こんにちは、つくば市教育長の森田です。今日はみんなとつくば市の教育大綱について話したいと思います。これはつくば市の教育の考え方の、一番大事なことを決めているものなんだ。手元の冊子に、「一人ひとりが幸せな人生を送るために」って書いてあるでしょう。そのために、先生も保護者もみんなでがんばろう、と決めているんです。どうでしょう、みなさんはいま幸せですか？

児童: はい！

森田教育長: すばらしい！

児童: 楽しいです、学校も家も。

森田教育長: いいね、どんなときに学校が楽しいって感じる？

児童: 友達と話す時間とか、遊ぶ時間が楽しい。

児童: 授業で分からないときに先生が優しく教えてくれるとうれしくなります。

森田教育長: そうかあ。私はいつも先生たちに、「みんなが幸せだと思える学校にしよう」と言っているんです。だから、みなさんが幸せって言ってくれてうれしいです。でも、いま幸せなものでも大事なことだけど、将来みんなが大人になっても幸せであることも大事だよ。そのために必要な力って、きっとあると思うんだ。

たとえばこの前テレビを見ていたら、アメリカで AI に仕事を取られて家賃が払えなくなっちゃった人の映像が流れたの。みんなが大人になったとき、そんなふうに働きたくても仕事がなかったら困るでしょう。ロボットや AI は、きっとこれからますます発達していくよな。そのときに、どんな力があつたらいいと思う？

児童: 最近、国語で「弱いロボット」について習いました。あえて弱い部分をつくって、人間も動けなくちゃいけないようにしているって。だから、なんでもロボットにまかせないで、自分が動くことが大事なのかな。

森田教育長: うんうん。

児童: 考え出すこと。ロボットや AI は考えることはあんまりできないから、自分たちで考え出す力が必要なんだと思います。

児童: 自分で新しいことに挑戦してみるとか。

児童: ロボットにはできない人間らしさかな。

森田教育長: そうだね。人間らしさってなんだと思う？

児童: 感情？

児童: コミュニケーション。決まった会話じゃなくて、相手のことを考えながら話すというか。



森田教育長: うんうん。いまみなさんが言ってくれたこと、全部そのとおりだと思います。そして、そういう力をみんなに身につけてもらうために、つくば市では先生たちに、「3 つのことを大事にしましょう」と言っているんです。

1 つめは、「教えから学びへ」。2 つめは、「管理から自己決定へ」。3 つめは「認知能力偏重から非認知能力の再認識へ」。

1 つめの「教えから学びへ」はなんとなくわかるかな。先生が教えるんじゃないくて、自分から学んでいくこと。どうかな、みなさんそういう勉強ができていますか？

児童: できてる！

森田教育長: おおっいいね！ たとえばどんなことをしているの？

児童: 新聞とか教科書を読んでいてよく分からない言葉が出てきたときは、辞書を引いて調べようになっています。

児童: ニュースで円高とか円安って毎日言われているけど、それが社会とどうつながっているのか分からないから、本を読みました。むずかしいから、ちょっとでもわかりやすそうな本を選

んで、どうにか自分でもわかるようになって。

児童:「これなんだろう」と思うことがあったらパソコンで調べて、そこから疑問に思ったことをまた調べる。それを紙に書いて、先生に見せることもあります。

森田教育長:とってもいいね。そう、分からないことがあったら、とことん調べてほしいんだ。「ちょっとわかったから、まあいいや」じゃなくて、「本当にそうかな?」と考えて、もっと調べていく。そういう力がつくと、きっとみんなの将来にいいと思うんです。



## 「失敗してもまたチャレンジしよう」と思えるクラスに

森田教育長: 普段の学校生活を通して、「むずかしいな」と思うことってある?

児童: やっぱり人に関わることかな。

児童:いろいろな意見の人がいるときに、ひとつにまとめるのがむずかしい。どれかを消しちゃうと、「なんで自分の意見は無視されるの」と怒っちゃうかもしれないから、どう決定していいかわからない。

児童:休み時間に外で遊んでいて、ちゃんとルールが決まっているのにルールに違反しちゃう人がいるときに、どうしたらいいかわかんなくなる。

森田教育長:ああ、それは教育大綱の「管理から自己決定へ」にもつながる話だね。これはどういうことかわかるかな？

児童:(隣の子を指さして)私たち企画委員会なんですけど、学校のパソコンの使い方のルールを先生じゃなくて自分たちで決めました。

森田教育長:そうそう。先生が「こうしよう」となんでも決めちゃうんじゃなくて、みんなが自分で考えて、自分で決めて、行動するってということだね。

でも、さっきみんなが言ってくれたみたいに、いろいろな意見をすり合わせるの大変だよ。そのときに必要なのが非認知能力なんだ。教育大綱では3つめに「認知能力偏重から非認知能力の再認識へ」と掲げているけど、みんなにはあんまりなじみのない言葉だよ。

認知能力って何かというと、簡単に言うとテストで何点取るとか、そういうもの。非認知能力は、テストで測れない能力。やる気とか、チャレンジする力とか、友達と協力する力とか、大事な心の話だね。つくば市では、認知能力だけじゃなくて、非認知能力も大事にしようとしているんだ。これについてどう思う？

児童:自分がやりたいことにチャレンジすることって大事だと思う。

森田教育長:そうだね。でも最近、「失敗するのが嫌だからチャレンジしない」という声を聞くことが結構あってね。みんなはどうか？

児童:先生が授業で「この問題わかりますか？」と聞いたとき、私も含めてみんな「間違えたら嫌だな、恥ずかしいな」と思って、誰も発表しないまま終わったことがあります。

森田教育長:そっか、なんで恥ずかしいと思っちゃうんだろう。どうすれば間違ってもいいやって思えるかな。



児童:失敗する姿を見られたくないとか、笑われたくないって気持ちがあるんだと思う。

児童:間違ってもあたたかい目で見られる環境だったら、手を挙げやすいと思います。

森田教育長:そうだね。いまはそうじゃないのかな？

児童:うーん、自分の考え方が周りの人と違うと「それ違うくない？」って言われて、責められている気持ちになるというか……。

児童:悪気はなくて、自分の考えと違うからそう言っただけだけど、言われた相手は責められているように聞こえちゃうってこともあるんじゃないかな。

森田教育長:うんうん、そういうことってあるよね。それを踏まえて、みんながチャレンジできるクラスになるにはどうしたらいいだろう？

児童:誰かが自分とは違う考えのことを言っても、「その人はそう思っているんだな」ってちゃんと受け止める。それでも、「私もそう思ったよ」という人がいたら、言ってあげる。

児童:みんなが「大丈夫」って言ってくれたら、失敗してもまたチャレンジしようって思える気がします。

児童:「間違えたときも、それによって学べることもある」と考えられるといいんじゃないかな。

森田教育長:本当にそうだね。だって、間違えない人なんていないからね。私もいっぱい失敗してきましたから。ぜひみなさんには、そういうクラスにしていってほしいな。



## 違いを認め合うことが大事

森田教育長:これまで、先生と過ごしていてうれしかったことはある? または、「もっとこうしてくれるとうれしいな」と思うことでもいいよ。

児童:間違ったときに、先生が「なるほど、こういう考え方もあるんだね」って言ってくれたことがあって、そういうふうには言ってもらえると安心するなって思いました。

児童:分からないときに、先生が「がんばって」って優しい言葉をかけてくれたから、やる気が出て「もっとがんばろう」と思いました。

児童:自分は算数がちょっと得意かもしれないと思っていたんだけど、いろんな考え方をしていたら、先生が「やっぱり算数が得意なんですね」と言ってくれてうれしかったです。

児童:休み時間にドッジボールをしていて、先生と一緒に参加してくれて楽しかった。

児童:ほかの先生は見学や審判に回ることが多いけど、うちの先生は参加してくれるからいいなって思います。



森田教育長:そっか、先生と一緒に遊びたいんだね。

児童:休み時間に先生が遊びに入ってくれと、みんなで遊んだり喋ったりできるから。

児童:前はみんなで一緒にドッジボールとかしていたけど、最近は教室にいる人も多くて。先生が声をかけてくれるとみんなで楽しく運動できていいなって思います。

児童:外で遊ぶ人が増えると、もっと楽しくなるよね。



森田教育長:そっかそっか。それでひとつ思い出したんだけど、先生が小学校で担任をもっていたとき、サッカー大会をやることになったんです。でも、あるグループのリーダーが、「休みに練習しないで本を読んでいる子がいるんです。先生から外に出るよう注意してください」って言ってきたの。これについてどう思う？

児童:うーん、強制的に外に出すんじゃなくて、サッカーを練習するとどんないいことがあるか優しく教えてあげたら、やってみようって気持ちになるんじゃないかな。

児童:「こうすると本番に活かせるよ」とか、「ちょっとだけでもやってみたらどう？」って声かけしたらいいと思います。

森田教育長:そうだね。先生はそのとき、練習に出ない子に何か言うんじゃなくて、リーダーに対して「その子は練習に出たくても出られないのかもしれないよ」と言ったんだ。みんな、得意なこと、不得意なことってあるでしょう。不得意なことを「やらなきゃダメだよ」と注意されたらどう思う？

児童:ますますやりたくなくなっちゃう。

児童:わたしも走るのが苦手だから、鬼ごっことかするときに「鬼になって役に立てなかったら恥ずかしいな」って思う。



森田教育長: そうだよな。だから先生のクラスでは、「不得意だからいやだな」という気持ちをちゃんと受け止めて、みんなで「うまくできなくても大丈夫だよ」と励まそう、そして練習に出てきてくれたら、優しく教えてあげようって決めたんだ。

最初に「人に関わることはむずかしい」という話があったけど、みんなで仲良く過ごすために大事なのは、「人ってそれぞれ違うんだ」とちゃんとみんなが分かっていること。いろんな子がいるから、お互いにそれを認め合って、できないことを許して、「じゃあどうしようか」って一緒に考えて工夫することが、とっても大事なんだと思います。

休み時間にみんなで外遊びするときも、運動が苦手な子の気持ちを想像しながら誘うようにしてくれるとうれしいな。

## これから挑戦したいこと



森田教育長: これまでの話を踏まえて、残りの小学校生活で挑戦したいこと、心がけたいことはありますか？

児童: みんなと少しずれた意見でも、自分の意見をちゃんと大事にして発表してみようと思いました。

児童: 「失敗しても大丈夫」と思って、積極的に手を挙げて頑張っていきたいです。

児童: 手を挙げるときはやっぱり少し勇気があるけど、「だめもとで、できたら超うれしい」みたいに思ってやっていきたいです。

児童: 私は外遊びが好きなんですけど、運動が苦手な子も一緒に遊びたいときは、「こうしたら楽しく遊べるんじゃない？」と考えて伝えようと思います。

児童: 6年生になったら実行委員会も増えていくから、自分から積極的に取り組んでいきたいです。

児童：答えが合っているか分からないときでも、「自分が手を挙げたら周りの子も手を挙げやすくなるかも」と思って、頑張っって手を挙げたいです。

森田教育長：みんなすばらしいね。最後に言ってくれたように、自分がかんばることでみんなが幸せになるっていう考え方はとても大事だと思います。自分だけが幸せになっても、周りの人が幸せじゃなかったら、本当には幸せとは言えない。だから、みんなが幸せになれるように、より良い沼崎小学校をつくってほしいです。

とくに、6年生になったら、子どもたちのリーダーだもんね。リーダーが「自分たちで楽しい学校をつくるぞ」「みんなで仲良くするぞ」と示してくれたら、後輩たちもついてきてくれるんじゃないかな。また来年学校を見に来ますから、そのときに「おお、いい学校になっているな」と思えるように、かんばってくださいね。楽しみにしています。



#### ■つくば市教育大綱

[https://www.city.tsukuba.lg.jp/material/files/group/7/kai\\_kyouikutaikou.pdf](https://www.city.tsukuba.lg.jp/material/files/group/7/kai_kyouikutaikou.pdf)

(企画／つくば市教育局学び推進課、一般社団法人 HatchEdu 執筆／飛田恵美子 撮影／神明篤志)